

教科書完全マスターシリーズ

単語力・熟語力を飛躍的に up させたい諸君の強～い味方

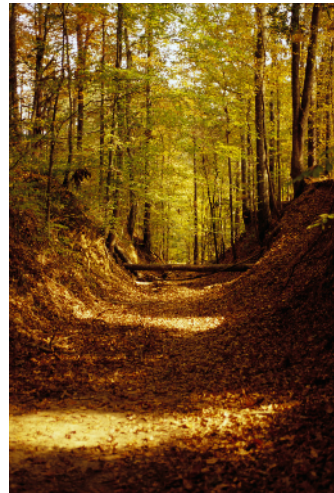
教科書の予習・復習にぴったり！！

英単語・熟語無双

< 中学 3 年 > NH

英単語は、元の意味・最も使い道の広い意味を1つか2つ知っていればOK！

英熟語は、それぞれの単語の意味を元に、「熟語としての意味がどのように生まれたのか」を理解すればOK！



考える学習をすすめる会

あさひ学習自由区 塾長 石田 和彦 著

考える学習をすすめる会

<http://www.kangaeru.org/>

は・じ・め・に

本書の目的はズバリ、**重要な単語・熟語を完全にマスターすること**ですが、丸暗記を前提とした市販の単語・熟語集とは次の点で大きく異なります。

単語については、教科書本文中の「せまい意味」にとらわれず、その単語**オリジナルの意味・最も使い道の広い意味**を重視しました。

そのため、単語の意味を**1つか2つ**に絞ってあります。

熟語は、「**なぜ『熟語としての意味』が生まれたのか**」を知ってもらうことを重視しました。

セット扱いする前の**単語1つ1つの意味にバラした解説**を、すべての熟語に載せてあります。

2種類(以上)の品詞として用いられる語は、**本文で登場する以外の品詞**もできるだけ語例を収録しました。

よく似た意味の単語は、**用法の違い**をくわしく解説しました。

では、次のページで、「**なぜ、単語の意味を絞ったのか?**」「**なぜ、熟語をバラしたのか?**」をご説明します。本テキストが、**単なる単語・熟語リスト**だと思われたくないのもので...

たとえば、動詞 have。辞書には 10 通り以上の「意味」が載っており、教科書などでも場面によって意味を使い分けるのがフツーです。

ところが...

このテキストには、have の意味として「持っている、持つ」の2つしか載っていません。これだけで十分だからです！ どーゆーことかと言うと、

I have a sister. You have a cat.
私は 持っている 1人の 姉妹を。 あなたは 持っている 1つの ネコを。

We had a good time last Sunday.
私たちは 持った 1つの よい 時間を この前の 日曜日。

どうです？ ~ の英文、チョット考えれば、これだけで文全体の意味は分かるでしょ？

ふつうは、「~がいる」、「飼っている」、は have a good time を熟語にして「楽しいときを過ごす」などと意味を使い分けます。

すると、ここまですべて、余計なことを3つも覚えなければなりません。この調子で単語の意味を訳し分けていったら、キミたちを待っているのは...






そう、丸暗記地獄。これじゃあ、英語の学習が楽しくなくなりますよね。

覚えることは、なるべく少ない方がいい！

だから、訳語の数を減らし、熟語さえ「単語の意味だけで理解してしまおう」という考えに徹しました。

予習・復習のパートナーとして、このテキストを繰り返し熟読すれば、キミも英単語・熟語の達人になれます！

本テキストの構成

<p> program [próugræm] </p> <p>p · ro · g · ra · m プ · ロウ · グ · ラ · ム </p>	<p>  プログラム (名詞)</p> <p>組み上げたものがオリジナルの意味。 場面によって、「予定」だったり、「計画」だったりする。</p> <p>教科書には「事業」などがあるが、決してこのように覚えてはイケナイ！！ 辞書にもこんな意味は載っていないぞ！</p>
--	---

スペル (中1用のみ、教科書とほぼ同じ書体しよたいになっています)

発音記号 (アメリカ英語を標準としました。辞書などで調べて、発音記号ししよを読めるようにしよう)

発音とスペルの関係 (辞書に載っている「音節」おんせつとは異なります)

意味 (その単語**オリジナルの意味**、**最も使い道の広い意味**を精選せいせんしてあります)

品詞 (それぞれの品詞については、参考書などで確認してください)

解説部分は、

青字はくわしい解説、**赤字**は**注意すべき事柄**ことがら (時々、教科書などに見られるフツ-の説明への**批判**ひはん) です。

目 次

A	で始まる単語・熟語	P 1 ~ 5
B	で始まる単語・熟語	P 6 ~ 9
C	で始まる単語・熟語	P 10 ~ 15
D	で始まる単語・熟語	P 16 ~ 19
E	で始まる単語・熟語	P 20 ~ 23
F	で始まる単語・熟語	P 24 ~ 27
G	で始まる単語・熟語	P 28 ~ 29
H	で始まる単語・熟語	P 30 ~ 32
I	で始まる単語・熟語	P 33 ~ 34
J	で始まる単語・熟語	P 35
K	で始まる単語・熟語	P 36 ~ 37
L	で始まる単語・熟語	P 38 ~ 41
M	で始まる単語・熟語	P 42 ~ 46
N	で始まる単語・熟語	P 47
O	で始まる単語・熟語	P 48 ~ 49
P	で始まる単語・熟語	P 50 ~ 58
Q	で始まる単語・熟語	P 59
R	で始まる単語・熟語	P 60 ~ 61
S	で始まる単語・熟語	P 62 ~ 68
T	で始まる単語・熟語	P 69 ~ 73
U	で始まる単語・熟語	P 74
V	で始まる単語・熟語	P 75
W	で始まる単語・熟語	P 76 ~ 80
Y	で始まる単語・熟語	P 80
付録		P 81

A・a

<p>able [eibl]</p> <p>a・b・le エイ・ブ・る</p>	<p>可能な状態（形容詞）</p> <p>「何かをする能力がある」という状態。</p>
<p><i>be able to ~</i></p> <p>be able to ~ です 可能な状態 ~する</p> <p>(注) 形容詞の後の不定詞は副詞的用法だが、右の解説では、あえて「名詞的」ととらえた。</p>	<p>「~することができる」</p> <p>助動詞 can と「ほぼ同じ意味の熟語」ということになっているが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・be able で「可能な状態である」 ・to ~ で不定詞。「これから~する」 <p>つまり、be able to ~ で、「(これから)~することが可能な状態である」というのが元の意味。</p>

can と be able to の違い

can …… I (He) **can** play tennis.

can に限らず、助動詞は話し手の気持ちや意思・判断を表す。

主語が I なら、「**自分はやろうと思えばいつでもできる**」という気持ち、

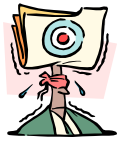
主語が he なら、「**彼はその動作が可能であろう**」という判断。

ただし、助動詞 can は、**可能性**以外にも、**能力・許可**等、幅広く使われる。

be able to ~ … I **am** (He **is**) **able to** play tennis.

助動詞ナシの文は、単に現在・過去の**事実**を述べているだけ。主語がなんであろうと、**事実として、その動作が可能である(であった)**。つまり、ある動作を行うための**能力**がある(あった)ことにウェイトを置いた表現。

act [ækt]	a・c・t ア・ク・トゥ	行動する (動詞)
action [ækjən]	a・c・tio・n ア・ク・シュン	行動 (名詞) 「戦闘」という意味もあるにはあるが、こんな特別な意味で覚えないように。編集者に「action game = 戦闘シーン」というイメージが強すぎたからだと思われる。
active [æktiv]	a・c・ti・ve ア・ク・ティ・ヴ	活発に行動する状態 (形容詞) 動作の内容によって、 行動的な、活動的な、積極的な 、など様々な意味になる。
addition [ədɪʃən]	a・ddi・tio・n ア・ディ・シャ・ン	付け足し, 追加 (名詞)
<i>in addition</i> in addition ~の中に 付け足し		その上, 加えて 「前の文」に「In addition で始まる, 後の文」が続く形が多い。 前の文の内容について、「『 付け足す 』事柄『 の中に 』, 後の文で述べる内容があるよ」と言っている。
afraid [əfreɪd]	a・f・rai・d ア・フ・レイ・ドゥ	恐れている状態 (形容詞)

<p><i>be afraid of ~</i></p> <p>be afraid of ~ である 恐れている状態 ~の</p>	<p>~を恐れる</p> <p>「~のことを恐れている状態である」ということ。</p> 
--	---

<p>against ~ [ə'geɪnst]</p> <p>a · gai · n · s · t ア · ゲ · ン · ス · トウ</p>	<p>~に反対して (前置詞)</p>
--	----------------------------

<p><i>agree with ~</i></p> <p>agree with ~ 同意する ~といっしょに</p>	<p>~に同意する</p> <p>with の後の「~」には「人(目的格)」がくる。同意したり賛成したりというのは、相手の提案に対して行うもの。そのため、「~」との共同作業ととらえ、with「~といっしょに」が用いられる。</p>
---	---


<p>album a · l · bu · m [ælbəm] ア · る · バ · ム</p>	<p>アルバム (名詞)</p>
---	------------------

<p><i>all over ~</i></p> <p>all over ~ すべて ~を越えて</p>	<p>~のいたるところで・に</p> <p>over の後にくる「~」という枠組を越えた、すべてのところで。 all over the world で「世界中で・の」</p>
--	---

along [ə'lɔ:ŋ]	a · lo · ng ア · 3ー · ング	~ に沿って (前置詞)
already [ɔ:lredi]	a · l · rea · dy オー · 3る · レ · ディ	[肯定文中で]もう,すでに (副詞)
among ~ [əməŋ]	a · mo · ng ア · マ · ング	~ の間で (前置詞) 3つ以上のモノに囲まれるようにして,それらの「間で」という意味。

angry [æŋgri]	a · n · g · ry ア · ン · グ · リ	おこ 怒った状態 (形容詞) 
<i>get angry</i> get angry 手に入れる 怒った(状態を)		怒る この場合の get は、「~になる」という意味の自動詞だが,敢えて元の意味「手に入れる」(他動詞)とする。 「怒っている状態」を手に入れる。

arm [ɑ:ɾm]	ar · m アー(ア) · ム	腕 (名詞)
arrest [ə'rest]	a · rre · s · t ア · レ · ス · トウ	たいほ 逮捕 (名詞) 逮捕する (動詞) もアリ
arrive [əraiv]	a · rri · ve ア · ライ · ヴ	到着する (動詞)
arrow [ærou]	a · rrow ア · ロウ	や 矢 (動詞) 

<p>art [ɑ:rt]</p> <p>ar · t アー(ア)・トゥ</p>	<p>芸術，美術（名詞）</p>
<p>artist [ɑ:rtist]</p> <p>ar · ti · s · t アー(ア)・ティ・ス・トゥ</p>	<p>芸術家（名詞）</p> 
<p>ate [eit]</p> <p>a · te エイ・トゥ</p>	<p>eat の過去形（動詞）</p> <p>「食べた，食った」</p>
<p>attack [ətæk]</p> <p>a · tta · ck ア・タ(ッ)・ク</p>	<p>攻撃する，襲^{おそ}う（動詞）</p> <p>攻撃（名詞）もアリ</p>
<p>attention [əténʃən]</p> <p>a · tte · n · tio · n ア・テ・ン・シャ・ン</p>	<p>注意（名詞）</p>

B・b

ban [bæn]	ba・n バ・ン	(公式に)禁止する (動詞)
barrier [bæriə]	ba・rrier バ・リア(ア)	しょうへき 障壁, 障害 (名詞)
beauty [bjú:ti]	beau・ty ビュー・ティ	び 美, 美しさ (名詞)

<p><i>because of</i> ~</p> <p>because of ~ 原因で ~の</p>	<p>~という理由で</p> <p>この場合の <i>because</i> は、接続詞ではなく副詞。「~」には原因・理由となるモノ(名詞)がくる。</p> <p>「<i>because of</i> ~」で「~の原因で」という感じ。</p>
---	---

been [bin]	bee・n ビ・ン	be の過去分詞
<p><i>have been to</i> ~</p> <p>have been to ~ 持っている いたという事実を ~へ</p>	<p>~にいたことがある</p> <p>現在完了は、「過去分詞で表された事実が過去のある時点で起こった。それを現在持っている」というのが本来の姿。今いる所から別の場所を指差して、「~へ」。そこに「いたという事実」を「持</p>	

	<p>っている」。</p> <p>have been to ~ で、「~へ行ったことがある」と訳されるケースが多いが、go の過去分詞など使われていない。せめて、「いたことがある」としてほしい。</p>
--	---

begun [bigʌn]	be · gu · n ビ · ガ · ン	begin の過去分詞
below [bi'lóu]	be · low ビ · ろウ	~ の下の方に · で · の (前置詞) 下の方に · で · の (副詞) もアリ
blossom [blásəm]	b · lo · sso · m ブ · ら(ッ) · サ · ム	(果樹 ^{かじゆ})の花 (名詞) blossom は、主に木に咲く花。草に咲く花は flower。
body [bádi]	bo · dy バ · ディ	体 (名詞)
bomb [bam]	bo · mb バ · ム	爆弾 (名詞)
bone [boun]	bo · ne ボウ · ン	骨 (名詞)
borrow [bárou]	bo · rrow バ · ロウ	借りる (動詞)



<p>break [breik]</p> <p>b・rea・k ブ・レイ・ク</p>	<p>^{こわ}壊す・壊れる (動詞)</p> <p>何を壊すか・何が壊れるかによって、様々な意味になる。 arm(腕)だったら、「折る」、 window(窓)から「割れる」、 紙や記録なら「破る」のように。</p> <p>いずれにせよ、教科書で初めて出てきた狭い意味で覚えてしまうことは避けたい。</p>
<p><i>break down</i></p> <p>break down 壊す・壊れる 下へ</p>	<p>^{こしょう}故障する, 分解する</p> <p>何かを壊したり壊れたりしたら、機能(など)がdownしてしまうこと。 「分解する」という意味はかなり限定的なので、単語オリジナルの意味で理解できるように。</p>
<p><i>break into ~</i></p> <p>break into ~ 壊す・壊れる ~の中へ</p>	<p>~に^{しんにゅう}侵入する, 急に~しだす</p> <p>何かを壊してその中へ入ると、「侵入する」。</p> <p>他にも、今までの状態が壊れて、「~の中へ」入りこんでしまい、急に別の状態に変わってしまうケースもある。例えば、「break into tears」(tearsは^{なみだ}「涙」)で、「急に泣きだす」という意味になる。</p>

<p>broke [brɔ:k]</p>	<p>b · ro · ke ブ・ロウ・ク</p>	<p>break の過去形 (動詞) 「壊^{こわ}した・壊れた」</p>
<p>broken [brɔ:kn]</p>	<p>b · ro · ke · n ブ・ロウ・ク・ン</p>	<p>break の過去分詞</p>
<p>burn [bɜ:n]</p>	<p>bur · n バ~(ア)・ン</p>	<p>燃える・燃やす (動詞) やけど (名詞) もアリ。 burn を名詞「やけど」という意味に使うのはごく稀。 今後、英文中での burn は 99% が動詞だと思って差し支^{つか}えない。</p>

C・c

<p>cake [keik]</p>	<p>ca・ke ケイ・ク</p>	<p>ケーキ (名詞) </p>
<p>cause [kɔ:z]</p>	<p>cau・se コー・ズ</p>	<p>引き起こす (動詞) 原因, 理由 (名詞) もアリ</p>
<p>chance [tʃæns]</p>	<p>cha・n・ce チェア・ン・ス</p>	<p>機会 (名詞)</p>
<p>cheap [tʃi:p]</p>	<p>chea・p チー・プ</p>	<p><small>あんか</small> 安価な, 安っぽい (形容詞)</p>
<p>check [tʃek]</p>	<p>che・ck チェ(ツ)・ク</p>	<p>チェックする (動詞) ヘタに「調べる」などと覚えるより、日本語化した「チェックする」の方が使い道が広い。</p>
<p>check ~ out check ~ out チェックする ~を 外へ</p>		<p>~を調べる 「~に当たるもの」が袋に入っていたでしょう。それを「チェックして」、どんどん袋の「外へ」出していくようなイメージ。</p>
<p>cheer [tʃiə]</p>	<p>cheer チア(ア)</p>	<p>応援する (動詞)</p>

<p>cheer ~ up</p> <p>cheer ~ up 応援する ~を 上へ</p>	<p>~を元気づける</p> <p>~に当たるモノを cheer して(「応援して」), 気分を up させる。</p>
<p>chocolate [tʃɔkəlɪt]</p> <p>cho · co · la · te チャ · カ · リ(ツ) · トウ</p>	<p>チョコレート (名詞)</p> 
<p>choice choi · ce [tʃɔis] チョイ · ス</p>	<p>選択, 選択の自由 (名詞)</p>
<p>classmate [klæsmeɪt]</p> <p>c · la · ss · ma · te ク · ラ · ス · メイ · トウ</p>	<p>級友<small>きゅうゆう</small>, クラスメート (名詞)</p>
<p>clear c · lear [kliə(r)] ク · リア(ア)</p> 	<p>ハッキリとした状態 (形容詞)</p> <p>見た目が clear なら「<small>とうめい</small>透明な」, 「<small>す</small>澄んだ状態」, 天候なら「晴れた状態」。視界が clear。 「頭の中が clear」なら「わかりやすい」という意味にもなる。</p>
<p>coffee co · ffee [kɔ:fi] コー · フィ</p>	<p>コーヒー (名詞)</p> 

<p>combination [kambəneɪʃn]</p> <p>co · m · bi · na · tio · n カ · ム · バ · ネイ · シュ · ン</p>	<p>組み合わせ (名詞)</p>
<p>common co · mmo · n [kámən] カ · マ · ン</p>	<p>普通の, 一般的な (形容詞)</p>
<p>company co · m · pa · ny [kámpəni] カ · ム · パ · ニ</p>	<p>会社 (名詞)</p>
<p>concert [kánsərt]</p> <p>co · n · cer · t カ · ン · サ(ア) · トウ</p>	<p>コンサート (名詞)</p>

<p>confuse [kənfju:z]</p> <p>co · n · fu · se カ · ン · フュー · ズ</p>	<p>混乱させる, 混同する (動詞)</p>
<p><i>confuse ... with ~</i></p> <p>confuse ... with ~ 混同する ...を ~といっしょに</p>	<p>...を~と混同する</p> <p>以下, ちょっとマニアックな解説です。</p>

「混同する」というのは「本来区別しなければならない2つ(以上)のものをゴッチャにする」こと。日本語では「**A**と**B**を混同する」のように、「**A**と**B**の区別がつかなくなる」といった意味合いで使われる。

よくあるケースとして、「**役不足**」と「**力不足**」。本来の意味は、

- ・ **役不足** …… 力のある役者さんにやらせるには物足りない役。すなわち、**能力のある人にラクな役目をさせる**こと。能力 > 役目
- ・ **力不足** …… 文字通り、力が足りないこと。すなわち、**その人にある役目をするだけの力がない**こと。能力 < 役目

なのだが、これらはしばしば混同される。例えば、新入社員がいきなり大きな仕事を^{まか}任されてうまくいかず、「私では**役不足**です」と上^{じょうし}司^{うった}に訴えるとき。

この場合、正しくは「力不足」なので、

「力不足」を「役不足」と混同した わけだが、

「力不足」と「役不足」を混同した

「役不足」と「力不足」を混同した

のいずれの言い方もOK(難解な日本語なんで、よ〜く読んでね)。要するに、日本語では2つのモノを取り違えたことに重点を置き、**どっちをどっちに取り違えたのかをあまり問題にしない**。

ところが、英語では「**どっちがどっちに間違われたのか**」をハッキリと示す言い方を**する**。

以下、“confuse **A** with **B**” とすると、他動詞 confuse の目的語は、直後に来る「A」である。「A を(何かと)取り違えた」のだから、**A** には取り違えられた方、すなわち「**正しい方**」が入る。

その後、“with **B**” 「~といっしょに **B**」と続いているのは、「A を混同する」という動作を B 「取り違えた方」との共同作業であると見なすから。よって **B** には「**誤った方**」が入る。

この新入社員は、「confuse **力不足** with **役不足**」したことになる。これらを入れかえて「confuse 役不足 with 力不足」にしちゃうと、取り違えそのものも逆になってしまう(本来「力不足」というところを「役不足」と言ってしまった)ので^{まいしん}細心の注意が必要だ。

この熟語を使って英文を作るとき、

日本語の「...を～と混同する」に釣られて、「confuse ... **and** ~」などとしないうこと。

正しい方(取り違えられた方)が **A** , **誤った方(取り違えた方)**が **B** に来ることをキチンと意識できるように。

等, きわめてハイレベルな熟語であることを認識してほしい。キツイ人はココまでの解説を「公式化」して,

confuse **正** with **誤**

と覚えてしまった方がいいかも...

以上, 中学生には非常に難しい解説です。「今の自分では『力不足』だな」と感じている人は, よく分からなくても気にしないでね。


<p>continue [kəntɪnju:]</p> <p>co · n · ti · nue カ · ン · ティ · ニュー</p>	<p>続ける, 続く (動詞)</p>
--	---------------------

continue と last の違い

continue は「動作や状態の**継続**」を表す。道が「続いている」イメージ。

last は「**持続**」。「持ち**こた**える」といった感じ。

<p>convenience [kənviːnjəns]</p> <p>co · n · ve · nie · n · ce カ · ン · ヴィー · ニャ · ン · ス</p>	<p>便利(なもの・こと) (名詞)</p>
<p>convenience store</p>	<p>コンビニエンス・ストア</p>

<p>cover [kʌvər]</p> <p>co · ver カ · ヴァ(ア)</p>	<p>^{おお}覆う (動詞) 覆うもの (名詞) もアリ</p>
<p><i>be covered with ~</i></p> <p>be covered with ~ である 覆われている ~といっしょに 状態</p> 	<p>^{おお}~で覆われている</p> <p>be covered で受動態。</p> <p>前置詞 with は「~といっしょに」という意味で、共同作業を表す。例えば、「何かを布で覆う」という動作は、主語が布といっしょに行う作業。</p> <p>これを受動態にしたとき、何者が覆ったのかは分からないが、「~との共同作業」だったことは間違えない。</p>
<p>cut [kʌt]</p> <p>cu · t カ(ツ) · トウ</p>	<p>切る (動詞)</p>
<p>cut</p>	<p>cut の過去形 (動詞)「切った」 cut の過去分詞</p>

無料DL版はココまでです。
続きは有料版をご覧ください。